

平成25年 第2回定例会が開催されました



去る6月25日から7月12日の会期で、平成25年 千葉市議会 第2回定例会が開催されました。緊急雇用創出事業等の補正予算をはじめとした議案19件、陳情・請願4件、発議10件の審議が行われた他、会派毎の代表質問、各議員による一般質問が行われました。

私自身も7月10日、通算で17回目の一般質問に立ちました。以下に、質問を通じて主張した政策の概要を報告致します。

※質問の様子は、市役所ホームページの「千葉市議会」-「議会議中継」-「録画放映」においてご覧になれます。
市役所のホームページは ▶ <http://www.city.chiba.jp/>

酒井伸二議員の一般質問 (政策提案の要旨)

1 人口減少への対応について

① 人口動態と政策形成について

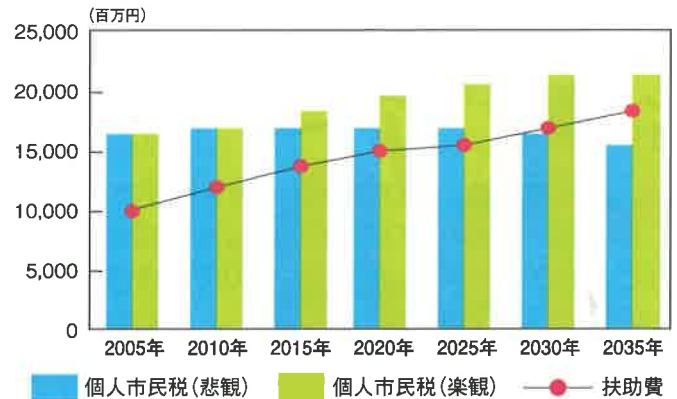
シミュレーションの実施を

本市の人口動態に関する質問で、今後、国を上回るスピードで高齢化が進むとともに、生産年齢人口割合が減少していくことが明らかとなりました。また、団塊の世代が全て後期高齢者となる「2025年問題」においては、2010年比で10万3千人増(約1.8倍)、人口構成比率は8.4%から19.0%に急増すること。市税収入の減少と高齢化に伴う扶助費の増大等が予測されることとあり、今後の政策はどうあるべきか?議論の土台となる実態を明らかにしていく作業が必要と考えます。

そこで、「根拠本位の政策形成、確かな政策議論のためにも、人口構成の変化による市の収支見通しなど、詳細なシミュレーション、検証作業をすべき」と主張致しました。

当局からは、「今後の政策の方向性をよりの確に見極めていくために、長期的、多面的なシミュレーションが必要であるものと考えており、その手法について十分に研究していく」との答弁がありました。

■ 個人市民税と扶助費の推計 (三鷹市)



三鷹市では、人口構成の変化による財政への影響についての検証は、持続可能な都市経営と自治体政策のあり方を検討する上で不可欠との考えから、別表のような各種シミュレーションを行っております。悲観ケースでは、扶助費が個人市民税をやがて上回り、楽観ケースでも個人市民税に対する扶助費全体の割合は大幅に増えております。

都市のブランド化をいかに

市長は所信表明において、(今後4年間で取り組まなければならない課題として)「社会経済情勢の変化を受けての千葉市の立ち位置の明確化」を真っ先にあげておりました。また、「東京都市圏とは一線を画した独自の価値観の提示」と繰り返し発言をしております。さて、今後いかに都市イメージを高め、ブランド化を図っていくのか?先進市の取り組みを紹介するとともに、今後の取り組みを質問しました。

当局からは「総合政策局が全庁的な調整を図り、具体的な都市イメージのコンセプト、本市の優位性のより効果的なPR方法などを検討し、市内外へ戦略的に発信していく。」との答弁がありました。

流山市では、子どもがいる共働き夫婦「デュークス」にターゲットを絞り、住民誘致を推進。子育て世代に支持される良質な住環境整備にも力を入れ、徹底したイメージアップ、ブランド化を図り、その呼び込みに成功しております。